

「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

ことう地域チームケア研究会 たよひ

令和6年1月31日発行

つながろう 話そう

ハイブリッドde 研究会

第65回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

◆開催日時: 令和6年1月18日(木) 18:30~20:30

◆参加者: 73名(医療関係36名、福祉関係18名、行政・包括・その他19名)

「緩和ケア・ACP」



【担当世話人団体】 湖東圏域4病院相談支援部門(彦根市立病院)・湖東健康福祉事務所

【話題提供】「彦根市立病院における緩和ケアとACP」

彦根市立病院 がん相談支援センター 森口朋子 氏

滋賀県内の5つの緩和ケア病棟



彦根市立病院
滋賀県立総合病院
市立大津市民病院
公立甲賀病院
ヴォーリス記念病院

緩和ケア病棟では

- ・病状コントロール、がん終末期患者の入院受け入れ
- ・全室個室
- ・面会は自由(ペットの面会も可能)
- ・外泊、外出、付き添い可能
- ・ボランティア(アロマ・マッサージ・音楽療法・アートセラピー・傾聴・ティーサービスなど)
- ・在宅療養への支援など

私の希望~これからの治療・ケアに対する今の気持ち~

- ◆彦根市立病院 緩和ケア病棟では、受診や入院をきっかけに患者さんから「私の希望 ~これからの治療・ケアに対する今の気持ち~」という用紙に思いを記入してもらっている。
- ◆内容はいつでも変更できることや、この用紙の記入の際に家族や大切な人にも相談し話し合ってもらうように働きかけることができている。

「自分の希望や大切にしていること」や、「将来、自分で自分のことを決められなくなった時」に備えて、私たち医療者にお気持ちをお聞かせください。(中略)

今のお気持ちをお聞きするもので、内容はいつでも変更できます。ご家族やご友人など大切な方々と話し合い、ご記入ください。

ちょこっと ACP

- ◆患者の価値観や人生観、死生観、病気との向き合い方などACPに関する会話や情報があった時に、「ちょこっとACP」を開始
- ◆患者にとって転機となるタイミングや、気になる言動があった際は、ちょこっとACPに随時追加記載をしていく。
- ◆これらの記録は、患者の治療方針を検討する際や、日常のカンファレンスにおいて活用する。

絵本『サイ五郎さんちの人生会議』をご存じですか？



大津市で活動されている在宅療養サポートチーム「チーム大津京」(代表 西山医院 西山順博院長)の協力のもと、2023年6月に日本医療企画より出版された絵本です。リビングウィルや人生会議について、とてもわかりやすく紹介されています。

「もしものときにどうする? どうしたい? どう生きたい?」

もしものときに、自分も、周りも困ってしまわないように、元気なうちから、自分や大切な人の好きなこと、大切にしていること、してほしいこと、もしもの時にどうしたいか等など、いろんな思いを共有しておくための人生会議。この絵本には、人生会議のための『対話カード』が紹介されています。

「やってみよう！私たちの人生会議」

～サイ五郎さんちの人生会議セットを使って～

10グループに分かれて、人生会議を行ったあと意見交換を行いました。



1. 本人と現在の過去: 5分
2. 大切な人の現在と過去: 5分
3. 漠然とした未来と人生会議: 5分
4. 本人の未来: 5分
5. リビング・ウィルカード: 10分
6. 人生会議を終えて: 10分

「気づいたこと」「今日の感想」「家族と話合いたいこと」



全体会

体験してみて感じたこと

和気あいあいと人生会議ができました。たくさんの方に広げていただけたらと思います。



司会進行
森口朋子さん

◆いろいろなカードを通して、他の方との価値観の違い、人生観の違いなど実感することができた。その「違い」を尊重することの大事さにも気づけた。

◆「自分の大切な人」について考えるとき、大切な人だからといって、その人の好きなことや影響を受けた人など、すべてのことを知っているわけではないことに気づくことができた。家族など身近な人でも何もかも知っているというわけではなかった。

◆このような機会に言葉に出して伝えることは大事だと思った。

◆体験を通して、自分自身の漠然としていた思いや、考えていなかったことがわかった、言葉で伝える難しさを感じた。

◆今回2回目の体験だった。以前と少し考えが変わっていたことに気づいた。何回か試みることで気持ちは変わるものだと思えた。

◆家族だから全部知っているわけではないので、日頃の相談業務の中で、専門職が関わりながら、もしもの時の話をする中で、ご本人さんの思いを家族が知る機会にもなるのではないかと考えた。

◆人生の最期のことは言葉にしづらいことではある。ゲームですると幾分か話しやすいと思う。

◆今回の体験は医療福祉関係者同士で行ったが、一般住民の方は、回答に迷うのではないかと感じた。

◆一般住民の方だと答えづらかったり、高齢の方の中には「もしもの時の話をするなんて」と反発を感じたりする方もいるだろう。住民啓発には工夫が必要と思う。

彦根市立病院 地域連携センター
吉川浩平先生より

チーム大津京代表 西山順博先生より
(オンラインでご参加いただきました)



☆「キュアとケア」について、病院はキュアを目指して頑張るが半分以上の方はケアが必要になり、そのときにリビングウィルを聞く機会になる。そこで家族・本人は慌て、焦り、動揺される。

☆何もない時からACPを始めることで、自分が病気になった時に、それに対して、どう考えるのか、ということに慌てないのではないかと考える。たくさんの方を見ていると、人生会議の入りやすい方法を使って自分の気持ちを見つめ直すのがすごく大事だと改めて感じた。



☆在宅医療では「cure(生命に対する支援)」も大事だが「care(生活の充実を支援)」が重要。患者の価値観、大事にしているものを理解しサポートすることが大切。そして、これからの在宅療養には「人生の満足度への支援」が望まれる。

☆『サイ五郎さんちの人生会議』は、異職種連携でできた絵本。人生会議についてわかりやすく説明している。

☆ACPの中で言われている「意思の形成」、「意思の表明」、「意思の決定」、そして、自分の信頼できる方にその「意思を実現」してもらえるようになるとういこと。

サイ五郎さんちのホームページ

<https://www.saigorosanchi.com/>

絵本の情報など
こちらをチェック!



☆彦根市立病院(窓口:がん相談支援センター)で絵本の貸し出しも行っていきます。
☆絵本は「くすのきセンター」にも置いてありますのでご覧いただけます。研究会事務局にお声かけください。

<第65回アンケートより一部抜粋>



こんなこと思いました

1, 話題提供「彦根市立病院の緩和ケアと ACP」について」の感想、印象に残ったこと

医師	湖北地域など県内に緩和ケア病棟がない地域があること
介護支援専門員	ACP のがん患者様の事例でちょっと ACP で患者様の思いを多職種で拾い取り、自宅で最期を夫、子供さんに囲まれて過ごされた。その思いに寄り添い希望をかなえられ本人だけじゃなく残された家族も生きる力になると思い、すごいと思いました
介護支援専門員	緩和ケアチーム員の構成や取り組みについて知ることができました。
看護師	ちょっと ACP を初めて知りました。とてもよい取り組みで、在宅でも、可能と思います。
家事代行・片付けサービス	医療従事者ではないので、私には難しいかなと思いましたが、ケアする側ではなく、当事者や家族になって聞くことができました。
看護師	病院内だけでなく、地域で共通のツールで取り組めればいいと感じた。
看護師	改めていろいろ考えることができた研修でした。

2, 対話カードを使った人生会議の体験やグループワーク・全体会への意見・感想、印象に残ったこと等

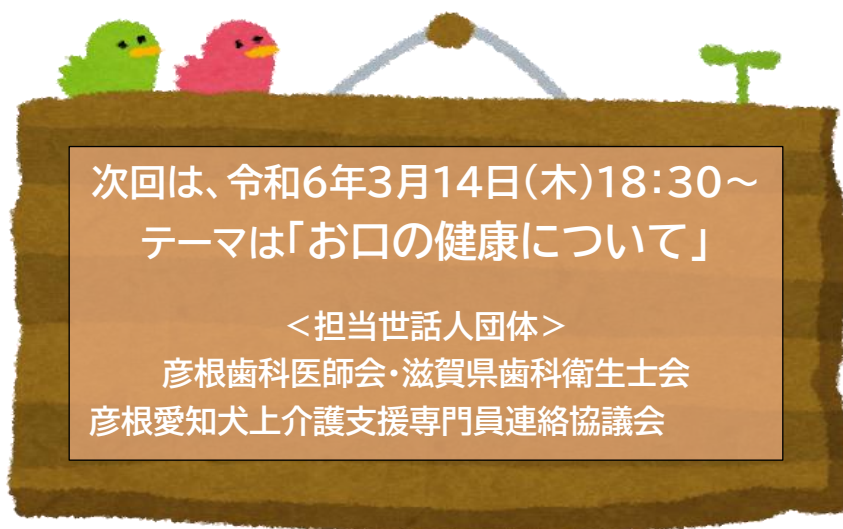
MSW	がん、病気になる前から考えていくということ。
MSW	考えたこともないことを楽しく考えられるということはすごく良いと思いました。今日は専門職の皆様でしたが家族や友人など一緒に行うことができればと思います。貴重な機会をありがとうございました。
医師	考えたこともないような課題があったが、その課題について考える機会を得られてよかった。カードを使って話すことにより話しやすかった。
介護支援専門員	それぞれいろいろな思い、価値観、大事にしているものがあるんだと思いました。また言葉に出し、聞いてもらうことで、自分はこんなことを考えていたんだとあらためて気づきました。元気な時から何回も自分の人生、最後の時のことを考えておく必要がある。カードを通して話しやすくなるなどと思いました。友達、家族、色々な場でやってみたい。
介護支援専門員	もしもの時の治療方法や経口摂取できなくなった場合の対処法など聞かれても試してみるということも容易なことではない。(多分無理でしょう)なのではっきり言ってわからないです。しかし最初の方の「大切な人はだれか」など普段からよく考えておかないといけないように思いました。
介護支援専門員	カードのアイテムがあれば聞き取りしやすい、話しやすいことが改めて感じました。
介護職	将来のことについて考えるきっかけになりました。
看護師	医療職間で行う場合、顔見知りでない関係性の場合など参加者の自己開示に難しさがある。ファシリテーターの工夫も大切だと感じる。
歯科医師	楽しかったです。家族(医療従事者)に紹介してみます。

社会福祉士	話しやすく暗いテーマを明るく話せた。
保健師	人生会議という思いイメージがありましたが、カード、絵本を使うとリラックスして考えることができ、また、グループワークでその人の人柄も知ることができてよかったです。
保健師	家族でやってみたい。
看護師	緩和ケア病棟の事例を聞いて、感動するとともに、在宅との違いを感じました。
家事代行・片付けサービス	今回はオンラインでの参加でしたので、会場の雰囲気は分かりませんでした。できれば直接会場に参加してみたいです。 また、オンライン上でしたが、皆さんの意見を聞くことができ楽しく参加できました。
看護師	人生会議と言うと何から話せば良いか悩むが、このカードのようにゲーム感覚で話せると話しやすく、そこから話が広がり深めていけるかと感じた。
看護師	自分の考えが曖昧なのに気づきました。何度も話す場を設けることが必要だと感じました。ありがとうございました。
看護師 相談支援専門員	人生会議は使いやすく地域の人たちにも伝えやすいと思いました。今後は地域にも広めていきたいと思っています。今回参加させて頂いて良かったです。また、機会がありましたら是非参加させて頂きたいです。カードの使い方を勉強したいです。

3. 研究会全般についての意見、要望など

介護支援専門員	ZOOMは職場で参加できるのでいいですが、会場参加して顔を見ていろいろなお話ができよかったです。
看護師	ありがとうございました。何気なく始める会話から少しずつ思いを聞いてあげられたらと改めて思いました。
看護師	日頃からこのような機会を持っていけるようにしたい。
看護師	サイ五郎さんちの人生会議、まずは絵本を熟読したいです。
家事代行・片付けサービス	今回は看護師の知人の紹介でこの研究会を知りましたが、私のような医療関係者以外の人の参加がもっと増えるといいなと思いました。
看護師	いつも開催ありがとうございます。難しいとは思いますが、時間がもう少し早く始まるか、時間を短くしてもらえると参加しやすいです。
看護師 相談支援専門員	カードの使い方を教えていただきたいと思っています。

ご意見、ご感想ありがとうございました。



ホームページ「在宅医療福祉情報の森」で次回研究会の情報・過去の開催内容をご覧ください。

在宅医療福祉情報の森



で検索。

【研究会に関するお問い合わせ】 ことう地域チームケア研究会事務局

- ◆ 一社)彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 TEL 49-2455 E-mail:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)
- ◆ 彦根市高齢福祉推進課(くすのきセンター) TEL 24-0828